

令和6年度徳島県公立高等学校入学学力検査
集計結果について

徳島県教育委員会教育創生課

令和 6 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査（育成型選抜）の成績結果の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（育成型選抜）は、検査Ⅰ（国語、社会、英語）、検査Ⅱ（数学、理科、英語）の2部構成とし、5教科について実施した。

配点は、各教科40点満点で、学力検査の総点は、200点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な学力の定着の程度を中心にみることに配慮するとともに、思考力を用いて解く問題も出題した。

5教科総合の平均点は、100点満点に換算して、53.5点であり、昨年度より1.3点低かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

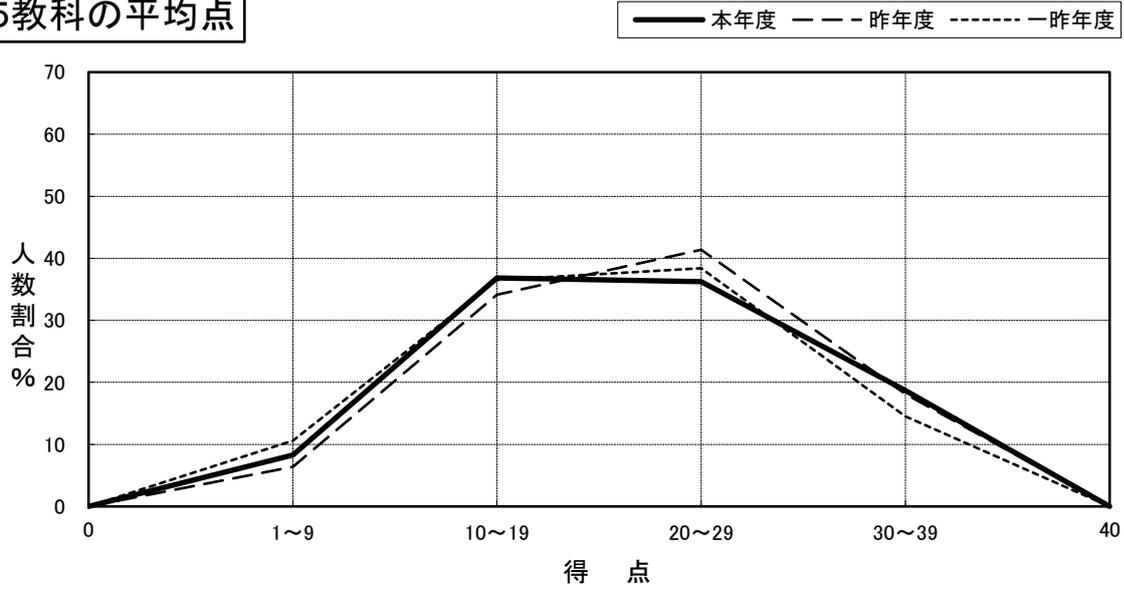
令和6年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(育成型選抜)成績表

受検者総数 809名

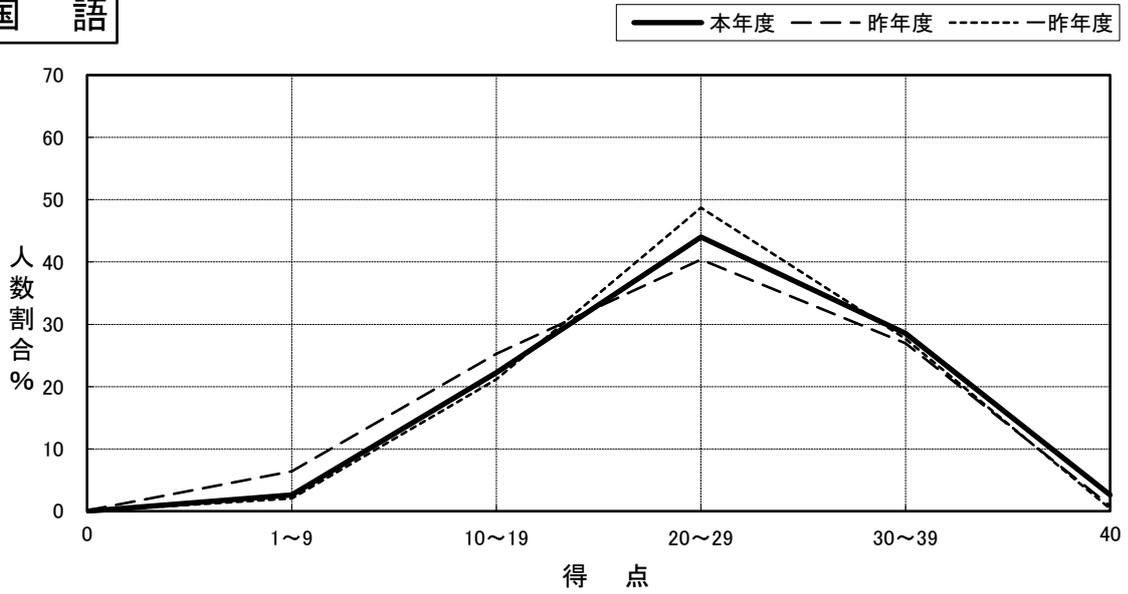
年度 教科	令和6年度		令和5 年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点 と比較	令和5年度		過去5 か年の 平均点
	平均点 (40点満点)	標準偏差			平均点 (40点満点)	標準偏差	
国語	25.0	7.9	+ 1.5	+ 0.9	23.5	8.4	24.1
数学	20.8	10.9	- 3.3	- 1.4	24.1	9.9	22.2
社会	21.2	9.0	+ 4.5	+ 0.6	16.7	8.9	20.6
理科	18.8	9.7	- 3.4	- 2.2	22.2	7.4	21.0
英語	21.3	11.4	- 1.6	+ 0.3	22.9	10.9	21.0
5教科	21.4	8.3	- 0.5	- 0.4	21.9	7.5	21.8

年度 教科	平均点						
	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
国語	23.0	23.8	25.2	24.9	23.5	25.0	62.5%
数学	24.1	19.2	24.4	19.1	24.1	20.8	52.0%
社会	23.2	18.7	24.3	19.9	16.7	21.2	53.0%
理科	23.6	19.7	20.3	19.0	22.2	18.8	47.0%
英語	23.5	21.1	17.2	20.1	22.9	21.3	53.3%
5教科	23.5	20.5	22.3	20.6	21.9	21.4	53.5%

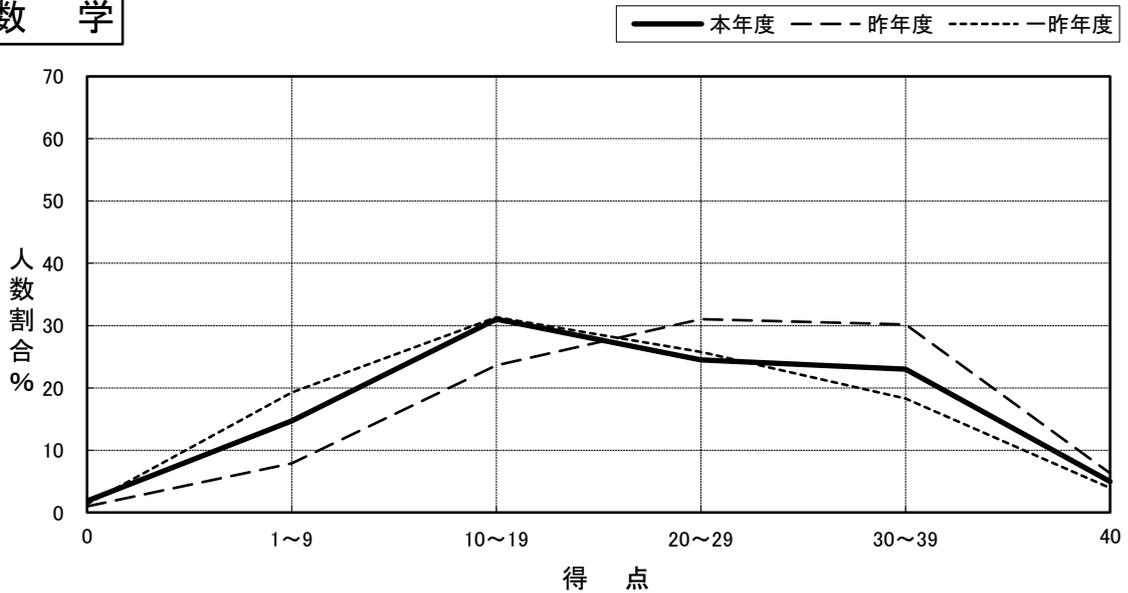
5教科の平均点



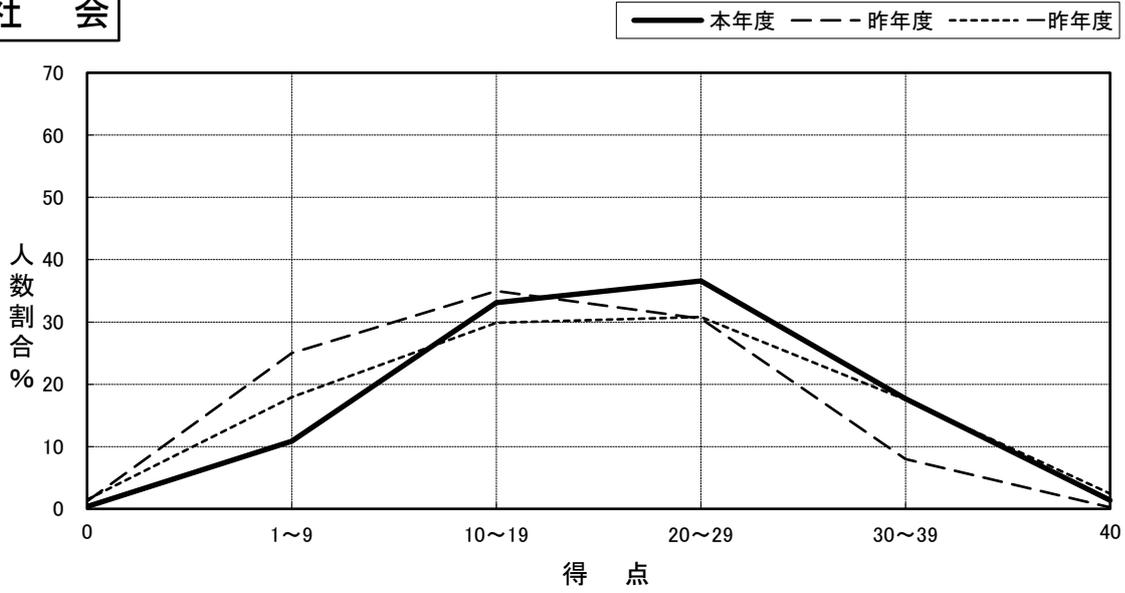
国語



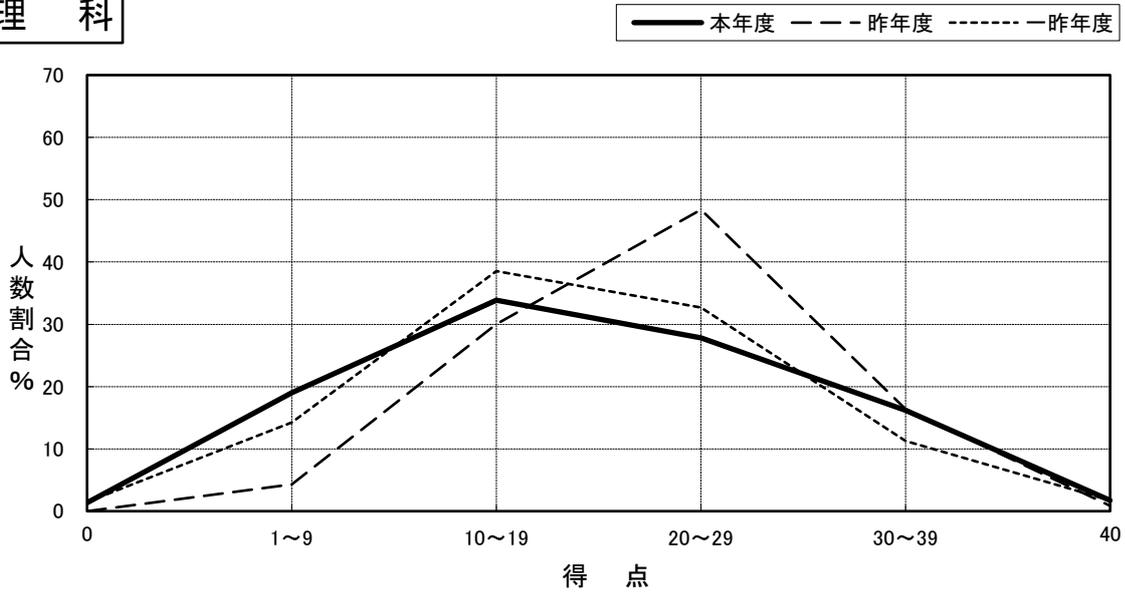
数学



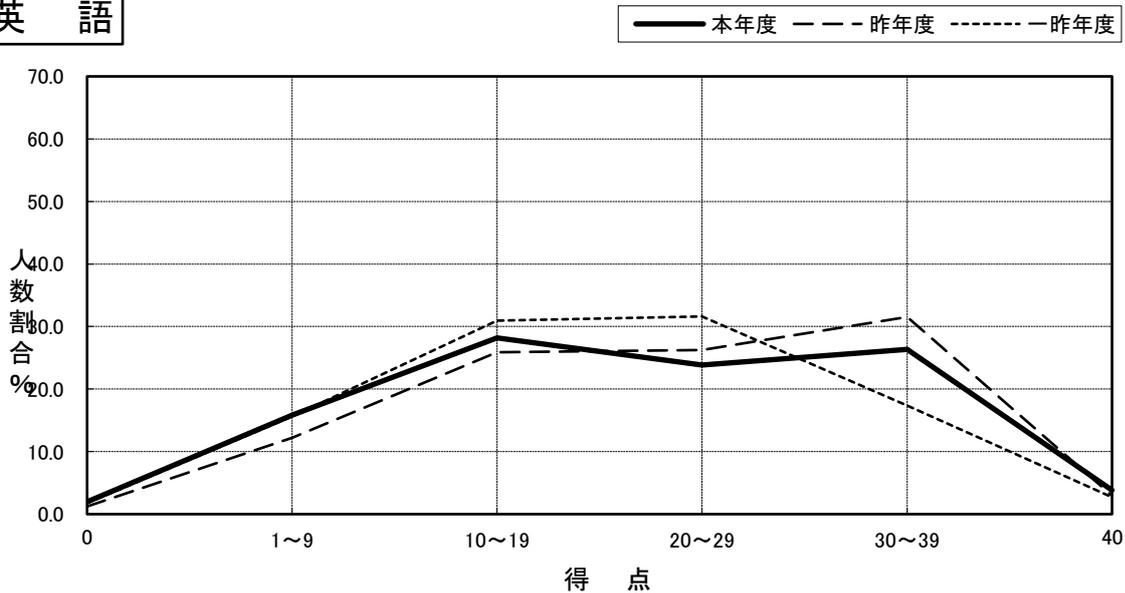
社 会



理 科



英 語



令和 6 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査の成績結果（一般選抜）の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（一般選抜）は、国語、数学、社会、理科、英語の 5 教科について実施した。

配点は、各教科 100 点満点で、学力検査の総点は、500 点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度や、思考力・判断力・表現力等をみることができ問題となるように配慮した。様々な思考過程により解答を導くことができる問題や多様な表現力をみる問題、日常生活に関連させた事項を題材とした問題、知識・技能を活用して課題を解決する問題も作成した。

5 教科総合の平均点は、100 点満点に換算して、56.0 点であり、昨年度より 2.1 点低く、過去 5 か年の平均点より 0.3 点高かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

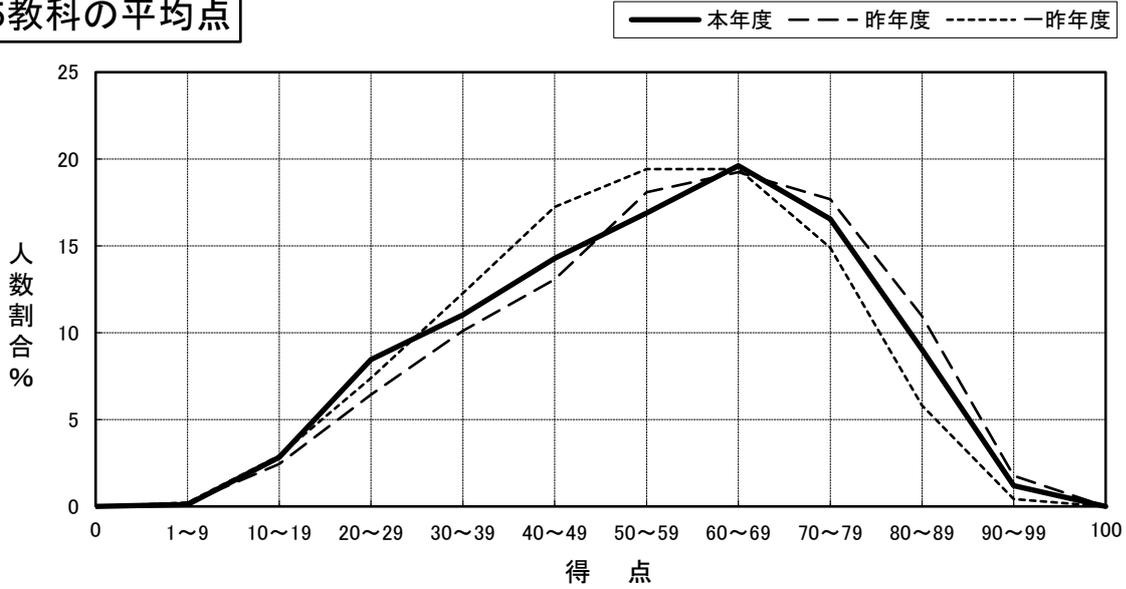
令和6年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績表

受検者総数 4333名

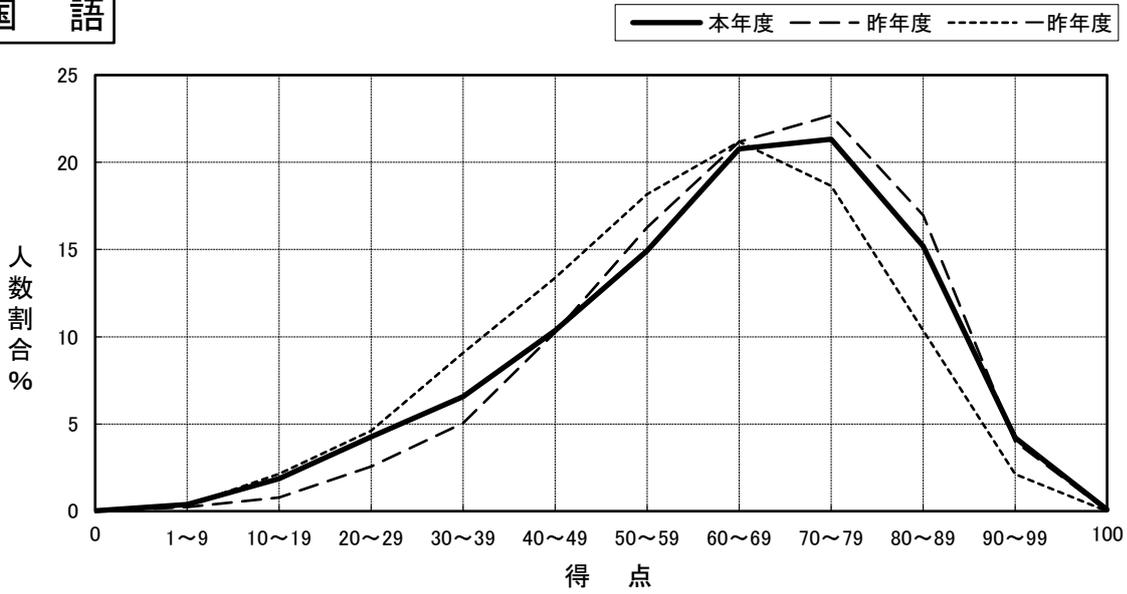
年度 教科	令和6年度		令和5年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点 と比較	令和5年度		過去5 か年の 平均点
	平均点	標準偏差			平均点	標準偏差	
国語	62.6	18.8	- 2.0	+ 1.7	64.6	17.1	60.9
数学	44.8	19.6	- 1.2	- 0.8	46.0	21.0	45.6
社会	64.1	22.3	+ 5.7	+ 5.7	58.4	21.4	58.4
理科	49.9	20.7	- 10.2	- 7.8	60.1	20.5	57.7
英語	58.5	23.5	- 2.5	+ 2.6	61.0	24.3	55.9
5教科	56.0	18.9	- 2.1	+ 0.3	58.1	18.8	55.7

年度 教科	平均点					
	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
国語	62.6	57.5	60.8	58.9	64.6	62.6
数学	46.1	46.0	46.9	42.9	46.0	44.8
社会	54.8	61.2	57.6	60.2	58.4	64.1
理科	54.5	60.6	58.0	55.2	60.1	49.9
英語	57.4	55.8	52.3	53.0	61.0	58.5
5教科	55.1	56.3	55.1	54.0	58.1	56.0

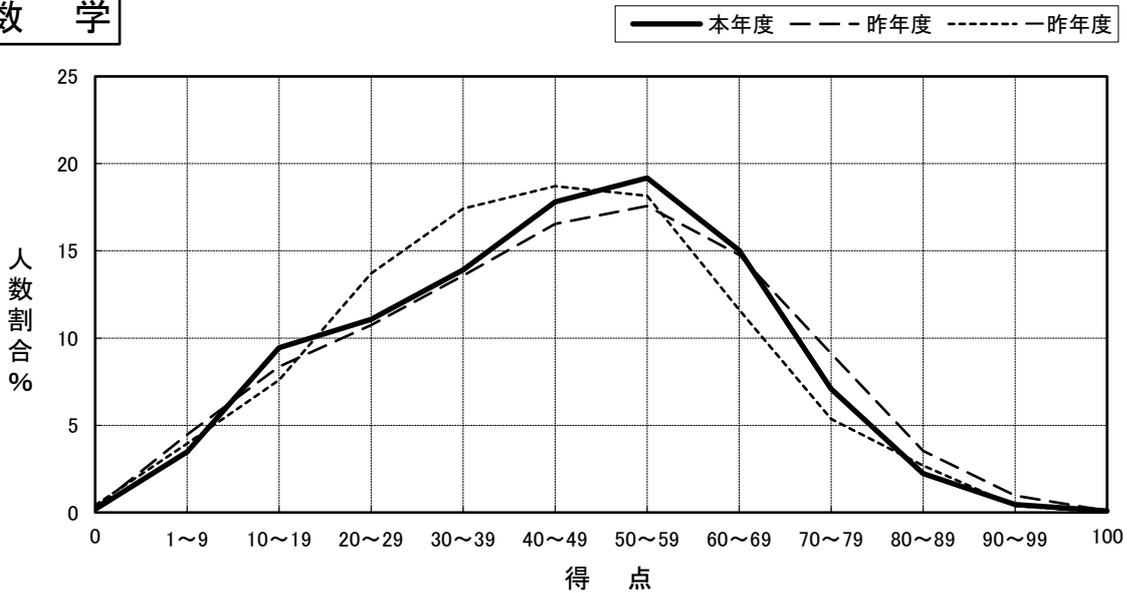
5教科の平均点



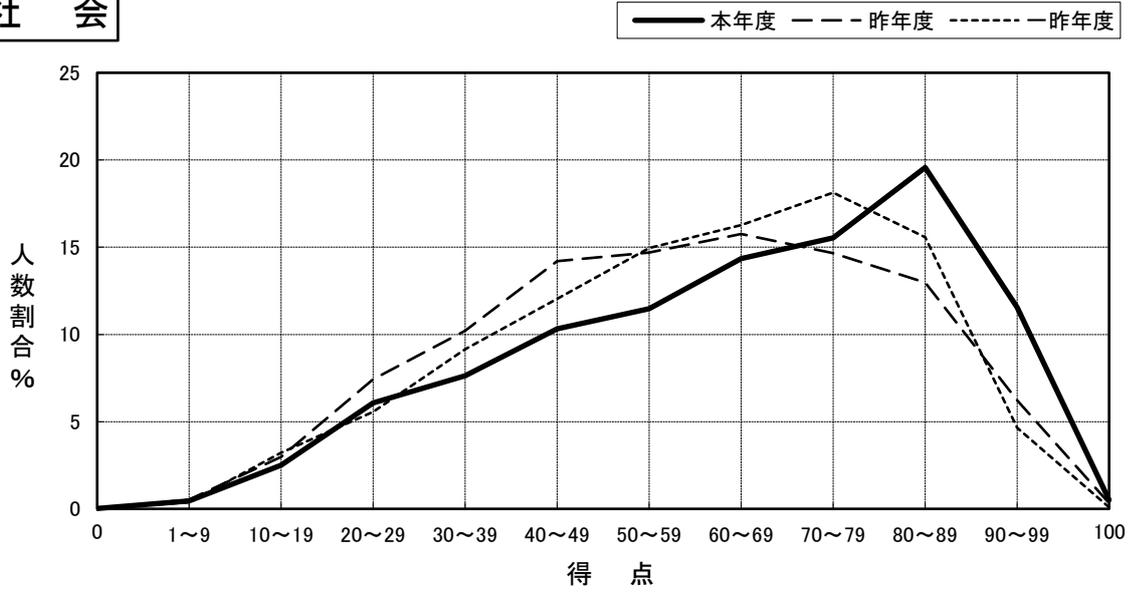
国語



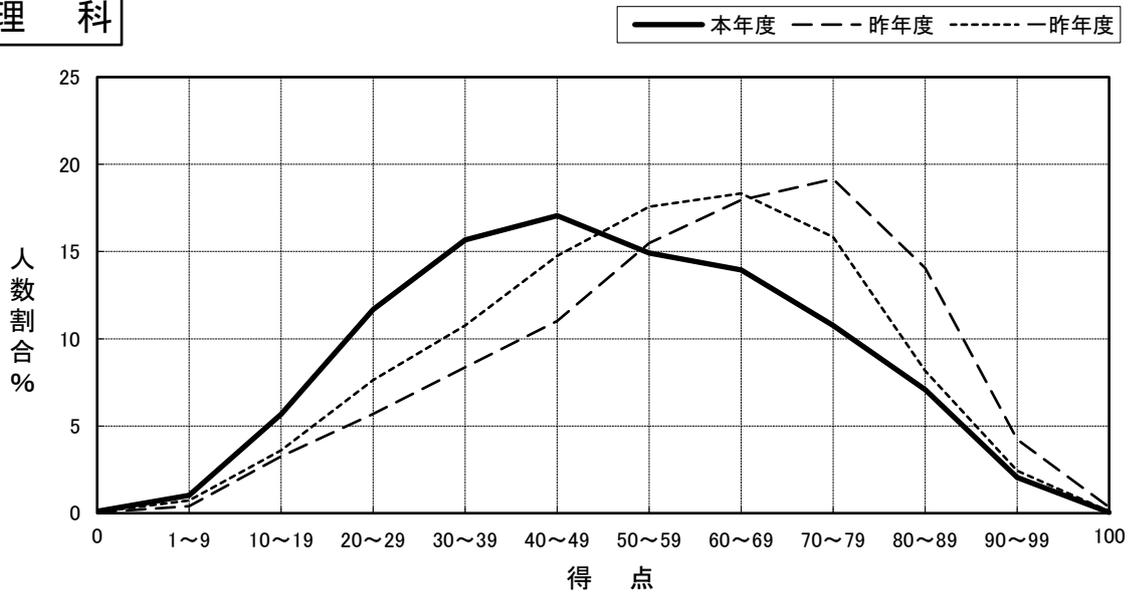
数学



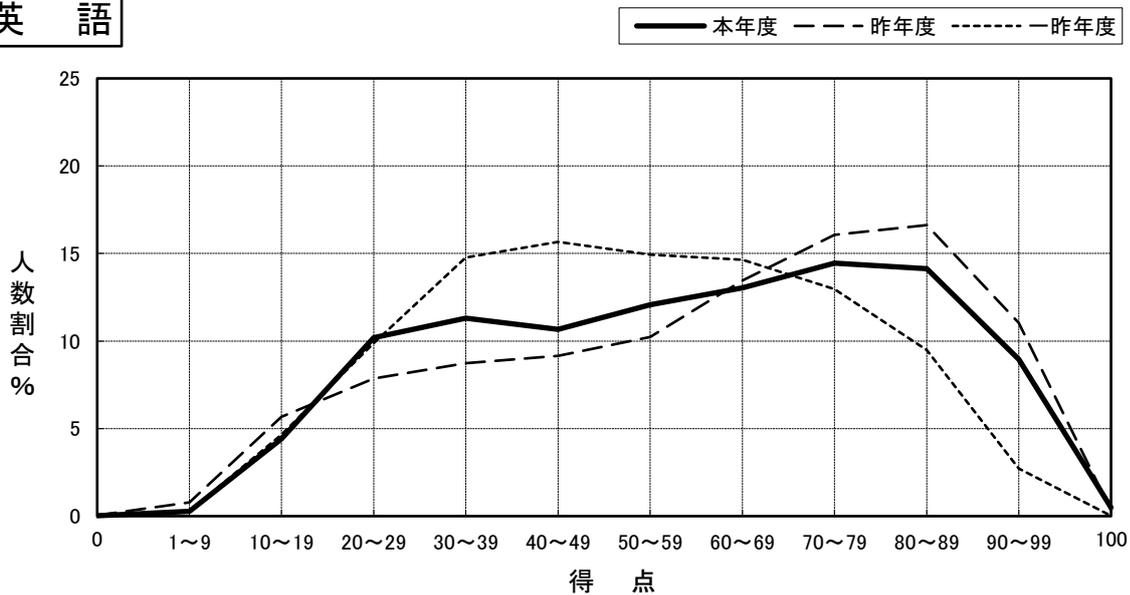
社 会



理 科



英 語



令和6年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(育成型選抜)成績結果の概要

教科	成績結果の概要
国語	<p>平均点は25.0点(100点換算62.5点)で、過去5か年の平均点に比べて0.9点高く、昨年度より1.5点高い点数であった。</p> <p>漢字の読みは良好であり、短歌に関する基礎的・基本的な知識の定着の程度をみる問題は、概ね良好であった。一方、漢字の書きや敬語の問題で課題がみられた。また、文章問題における本文の内容をまとめる問題で誤答が多かった。</p>
数学	<p>平均点は20.8点(100点換算52点)で、過去5か年の平均点に比べて1.4点低く、昨年度より3.3点低い点数であった。</p> <p>基礎的・基本的な計算問題や場合の数を求める問題は、良好な結果であった。一方、グラフから直線の式を求める問題や、相対度数から条件を満たす生徒の人数を求める問題、立体内にできるひし形の面積を求める問題は誤答が多かった。</p>
社会	<p>平均点は21.2点(100点換算53.0点)で、過去5か年の平均点に比べて0.6点高く、昨年度より4.5点高い点数であった。</p> <p>「プランテーション」や、小野妹子が派遣された中国の国名「隋」などの知識を再現する問題や、再現した知識を基に正答を選択する問題は良好な結果であった。一方、歴史上のできごとを関連付けて文化が形成された時期を選択する問題や、政府の役割を経済活動の模式図から複数選択する問題は誤答が多かった。また、憲法で保障されている、労働組合をつくる権利の名称を答える問題や、株式会社の資金の集め方を記述する問題は、無解答が多かった。</p>
理科	<p>平均点は18.8点(100点換算47.0点)で、過去5か年の平均点に比べて2.2点低く、昨年度より3.4点低い点数であった。</p> <p>無性生殖や光の色、溶媒等、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であり、無解答も少なかった。単位についての説明をする問題や、光の進み方について作図をして考える問題等、知識が定着していないものもみられた。また、思考力を用いて解く問題のうち、植物の呼吸と光合成についての問題は良好な結果であったが、飽和水溶液について計算が必要な問題は誤答が多かった。</p>
英語	<p>平均点は21.3点(100点換算53.3点)で、過去5か年の平均点に比べて0.3点高く、昨年度より1.6点低い点数であった。</p> <p>Yes/No 疑問文への応答表現を選ぶ問題や、文脈から判断して空所に入る表現を選ぶ問題は良好な結果であった。一方、英語の質問に対する応答文を英語で書いたり、対話が成り立つように適語を入れて英文を完成させたりする記述問題では誤答が多く、無解答も見られた。</p>

令和6年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績結果の概要

教科	成績結果の概要
国語	<p>平均点は62.6点で、過去5か年の平均点に比べて1.7点高く、昨年度より2.0点低い点数であった。</p> <p>漢字、語句、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改める問題等の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は、概ね良好な結果であった。一方、ふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる問題、複数の資料をもとに情報を整理してまとめる問題等、思考力や表現力を必要とする問題においては誤答や無解答が多かった。</p>
数学	<p>平均点は44.8点で、過去5か年の平均点に比べて0.8点低く、昨年度より1.2点低い点数であった。</p> <p>「数と式」、「関数」の各学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。一方、日常生活における事象を題材として数学に関連付け、グラフや図、表を正しく読み取ったり、必要な数量の関係を見出し数学的に処理したりする問題は誤答が多かった。関数と図形の基礎的・基本的な内容を組み合わせて解決する問題や思考力を必要とする図形の問題は誤答や無解答が多かった。</p>
社会	<p>平均点は64.1点で、過去5か年の平均点に比べて5.7点高く、昨年度より5.7点高い点数であった。</p> <p>「シルクロード」や「ユーラシア大陸」など、単に知識を再現する問題は良好な結果であった。一方、近現代のできごとを並び替える問題や、資料から読み取った複数の内容を関連付けて正答を選ぶ問題は誤答が多かった。また、戦争遂行のために制定された法律名を答える問題や、国家間のきまりや合意の名称を答える問題については、知識を再現する問題ではあるが、無解答が多かった。</p>
理科	<p>平均点は49.9点で、過去5か年の平均点に比べて7.8点低く、昨年度より10.2点低い点数であった。</p> <p>「地震」、「垂直抗力と摩擦力」、「気体の集め方」など、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。一方、静脈のつくりを説明する問題や階段の照明の回路図をかく問題など、説明文を書いたり、実験や観察に関する説明を理解して考察し、図で表したりする問題は誤答が多かった。</p>
英語	<p>平均点は58.5点で、過去5か年の平均点に比べて2.6点高く、昨年度より2.5点低い点数であった。</p> <p>全体を通して選択問題は無解答がほとんどなかった。短い英語や対話を聞いて答えを選んだり、必要な情報を聞き取ったりするリスニング問題は良好な結果であった。また、文脈から判断し、空所に入る適語を選ぶ問題は良好な結果であった。一方、話し手の質問を聞いて自分の答えを英文1文で書くリスニング問題や、文脈から判断し、対話や本文が自然な流れになるように、空所に適切な文や語を入れて英文を完成させる問題など、記述形式の問題は誤答が多く、無解答率も高かった。</p>

徳島県公立高等学校普通科の通学区域制の見直しに伴う入学者選抜結果の概要

1 令和6年度入学者選抜における通学区域制

通学区域制については、令和3年度入学者選抜以降、変更していない。

【参考】令和3年度入学者選抜における変更点

- (1) 第3学区（徳島市内）において、
 - ・ 城東高等学校について、募集定員の12%以内であった流入率を廃止し、通学区域を全県一区とした。（城ノ内高等学校は募集停止）
 - ・ 城南、城北及び徳島北高等学校について、募集定員の10%以内であった流入率を12%以内に引き上げた。
 - ・ 徳島市立高等学校については、所管する徳島市教育委員会の意向を踏まえ、募集定員の8%以内の流入率を維持した。
- (2) 第1学区（県南部）において、
学区内総募集定員の15%であった流入率を20%以内に引き上げた。
- (3) 第2学区（県北部～県西部）において、
学区内総募集定員の10%であった流入率を12%以内に引き上げた。

2 結果の概要（一般選抜）

※城東高等学校を全県一区とした令和3年度入試以前の3年間と直近3年間の平均比較

- (1) 通学区域外から第3学区の普通科（城南・城北・徳島北・徳島市立）に合格した生徒数

平成30年度から令和2年度まで 68.3人
→ 令和4年度から令和6年度まで 92.0人
- (2) 徳島市内の公立中学校から徳島市外の普通科に合格した生徒数

平成30年度から令和2年度まで 80.3人
→ 令和4年度から令和6年度まで 75.0人
- (3) 第3学区普通科（城南・城北・徳島北・徳島市立）における各学校の学区内外別合格最低点の差の平均点

平成30年度から令和2年度まで 103.7点
→ 令和4年度から令和6年度まで 74.8点

各教科の大問別解答状況の概要と授業改善の視点

<p style="text-align: center;">国 語</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>一 漢字、文法、行書等、基礎的な知識に関する問題は、昨年度に比べて行書の正答率が低いものの、概ね良好である。</p> <p>二 文学的な文章の読解に関する問題については、傍線部の指す内容をまとめる問題の正答率が高く、本文の内容を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる問題等、記述する問題では正答率が低い。</p> <p>三 複数の資料をもとに説明的な文章を読解する問題については、本文の内容を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿って書く問題の正答率が低い。話し合いの方法についての問題では、正答率が高い。</p> <p>四 古典については、基礎的な知識に関する問題は良好であるが、内容を理解したうえで条件に沿って書く問題については、正答率が低い。</p> <p>五 資料をもとに作文を書く問題については、昨年度と比べて正答率が低い。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>一 漢字の読み書き、語句等の基礎的な知識は、日常の言語生活と結び付けたうえで定着を図ることが必要である。</p> <p>二 登場人物の言動の意味などについて考えたり、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などに着目して読み、描写をもとに捉える力の育成が必要である。</p> <p>三 主題を読み取る力、複数の資料をもとに情報を整理して理解を深め、記述する力の育成が必要である。言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育むことがなお一層望まれる。</p> <p>四 古典に親しむ機会を多くもたせるとともに、古典に表れたものの見方や考え方に触れて、登場人物や作者の思いなどを想像する力の育成が望まれる。</p> <p>五 様々な資料を読んで理解したことや考えたことを経験と結び付け、自分の考えをまとめる機会を多くもたせることが必要である。</p>
<p style="text-align: center;">数 学</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>「数と式」「関数」の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。</p> <p>1 正四面体の辺の数を答える問題や度数分布表から条件に合う a、b の値の組み合わせの数を求める問題、3 点が一直線上に並ぶ確率を求める問題の正答率が低かった。</p> <p>2 電車の平均の速さを求める問題は誤答が多く、条件を満たす時間の求め方を説明する問題は誤答や無解答が多かった。</p> <p>3 日常生活における事象を題材として数学に関連付けた問題であったが、タワーの段数を求める問題や表や規則性から各段の棒の本数を表す式を求める問題、必要なトランプの枚数を求める問題の誤答が多かった。</p> <p>4 正方形を 1 回転させてできる立体の体積を求める問題や三角形の周の長さが最小となるような 1 点の座標を求める問題は誤答や無解答が多かった。</p> <p>5 三角形の相似を証明する問題は誤答や無解答が多かった。また、相似比から三角形の面積を求める問題や与えられ与えられた条件から線分の比を求める問題は正答率が低く、無解答も多かった。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1 基礎的な内容に関する本質的な理解や思考力を育成する必要がある。</p> <p>2 与えられたグラフを正確に読み取り、必要な値を求めたり、解決の方法を数学的な表現を用いて説明したりする力を育成する指導が必要である。</p> <p>3 問題文を正確に読み取り、必要な数量の関係を見だし、数学的に処理することができるような思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。また、全国学力調査やステップアップテストなどを活用し、日常生活と関連した数学の問題などを通し、数学に対する興味・関心を一層高めることも大切である。</p> <p>4 領域を横断した基礎的・基本的な内容を組み合わせ、問題を解決する思考力の育成が必要である。</p> <p>5 問題文から状況を読み取り、数学的に処理することができるような思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">社 会</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>1～5 「シルクロード」や「ユーラシア大陸」など、単に知識を再現する問題は正答率が高かった。一方、近現代のできごとを並び替える問題や、資料から読み取った複数の内容を関連付けて正答を選ぶ問題は正答率が低かった。また、戦争遂行のために制定された法律名を答える問題や、国家間のきまりや合意の名称を答える問題については、知識を再現する問題ではあるが、無解答が多かった。</p> <p>6 「自立した消費者になるための消費生活の在り方」をテーマとする学習に関わる総合問題においては、資料を基に、食品ロスを削減するための取り組みの意味を記述する問題で良好な結果となった。一方、資料を基に、価格と需要量・供給量の関係について正答を選択する問題は正答率がやや低かった。また、19 世紀の日本で生まれた新しい生産方法である工場制手工業を答える問題では、無解答率が高かった。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1～5 基礎的・基本的な知識の習得が不十分な生徒に対しては、教科書の重要語句をしっかりと理解させることが必要である。また、社会的な事象について多面的・多角的に考え表現する力や、資料から情報を正確に読み取り考察する力など、様々な角度から思考力・判断力・表現力等の育成を図ることが重要である。そのためには、資料の読み取り、解釈、表現の過程を重視した授業づくりが求められる。</p> <p>6 各分野で学習した成果を関連付け、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、その結果を表現できる総合的な力の育成を図ることが重要である。そのためには、日頃から、単元や分野をこえて学習成果を活用できるように、各分野の既習の知識を相互に関連付け、課題を解決する学習指導を展開する必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">理 科</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>1 基礎的・基本的な内容に関する問題の正答率は高かった。一方で、実験に関する問題の誤答は多く、無解答率は高かった。</p> <p>2 血液の成分についての問題の正答率は高かったが、静脈のつくりの特徴を書く問題の正答率は低かった。</p> <p>3 基本的な内容に関する問題の正答率は高かったが、金星の見かけの大きさについて説明文を完成させる問題の正答率は低かった。</p> <p>4 金属のイオンへのなりやすさについての問題の正答率は高かったが、電池のしくみについての正答率は低く、無解答率も高かった。</p> <p>5 基礎的・基本的な内容で、用語を書く問題や計算する問題の正答率は高かったが、回路図をかく問題や測定器具のしくみについての問題の正答率は低かった。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1 観察・実験を通じて、基礎的・基本的な内容を、生活に結びつけた知識・技能として定着させることが大切である。</p> <p>2 用語の意味を深く理解させるとともに、問題文の内容を把握したうえで、文章で論理的に説明できるようにすることが大切である。</p> <p>3 現象を時間的・空間的な視点でとらえ、深く理解できるようにすることが大切である。</p> <p>4 実験の目的や操作の意図を考えられるようにし、考察したことを文章で記述させる機会をつくることが大切である。</p> <p>5 実験から得られた結果を基礎的・基本的な内容と結びつけて考えられるようにし、結果が何を表しているかを理解し、考察したことを適切に表現できるようにすることが大切である。</p>
<p style="text-align: center;">英 語</p>	<p>【成績結果の概要】</p> <p>1～3 選択問題は全般的に良好な結果であったが、まとまった分量の英語を聞いてその要点を捉える問題や、質問を聞いて自分の答えを英文 1 文で書く問題では、正答率が低く、無解答も多かった。</p> <p>4 全般的に良好な結果であった。</p> <p>5 文脈から判断し、登場人物の対話が自然なやり取りになるように、空所に入る 1 文を英語で書く問題では、正答率が低く、無解答が多かった。</p> <p>6 本文中から抜き出した文を正しいところに入れる問題では誤答が目立った。質問に対する答えになるように、自分の意見等を書く自由英作文の問題は良好な結果である一方、無解答も多かった。</p> <p>7 疑問詞を使った英語の質問に対する応答文を英文 1 文で書く問題は誤答が目立った。また、文脈から判断し対話が成り立つように空所に適語を入れて英文を完成させる問題、まとまった英文の概要を捉えてキーワードを抜き出す問題などは、正答率が低く、無解答も多かった。</p>	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1～3 日常的な話題や社会的な話題に関する対話や説明など、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を捉える力を育成する言語活動を取り入れることが望まれる。</p> <p>4 日常的な話題について話されたり書かれたりした内容を正確に理解するとともに、自らも適切に表現する力を育てる言語活動の工夫が望まれる。</p> <p>5 相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、会話を継続する言語活動を行う必要がある。</p> <p>6 コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、自分の意見や考えを伝え合う言語活動を繰り返し行う。また、既習事項を活用して、自分の思いが伝わるように書くことの指導が必要である。</p> <p>7 まとまりのある初見の英文を最初から最後まで通して読む機会をできるだけたくさん設定するとともに、話の概要を捉えたり、書き手が伝えようとしている要点を把握したりする力を育成する指導が求められる。</p>